

令和3年度 学校自己評価（職員による取組への自己評価）

「通いたい学校 通わせたい学校 勤めたい学校」

A：大変よい B：問題ない C：やや不十分である D：不十分である
※ 評価数値はA=4,B=3,C=2,D=1と換算した場合で中央値は2.5

本年度の重点項目

□ 1 カリキュラムマネジメントの視点

評価項目		評価数値	職員評価	
1	安心して生活できる集団育成と生徒自治活動の充実	3.1	A	1
			B	14
			C	0
			D	0
2	非認知能力を育成する見通しと振り返りの習慣づくり	2.9	A	1
			B	11
			C	3
			D	0
3	多様な評価と発問の工夫、見通しをもった指導	2.9	A	3
			B	8
			C	4
			D	0
4	本物、実物、具体物に触れさせるカリキュラム	3.3	A	5
			B	9
			C	1
			D	0
5	主体性を育む清掃の取組	2.6	A	0
			B	9
			C	6
			D	0
6	地域貢献活動 ボランティア活動、地域連携の推進	2.9	A	0
			B	14
			C	1
			D	0
7	語彙力、読解力、表現力向上の取組（図書館、新聞活用等）	3.1	A	1
			B	14
			C	0
			D	0
8	時間を生み出す多様な日課表の工夫	3.1	A	3
			B	10
			C	2
			D	0

□ 2 組織マネジメントの視点

評価項目		評価数値	職員評価	
9	指導の工夫、アイデアを出し合う場の設定	3.0	A	4
			B	9
			C	2
			D	1
10	校務支援システムの利活用を中心とした業務内容の整理と働き方改革の推進	2.8	A	3
			B	7
			C	5
			D	1
11	主体性を育むバランスのとれた部活動	2.9	A	3
			B	9
			C	4
			D	0

□ 3 リスクマネジメントの視点

評価項目		評価数値	職員評価	
12	保護者、地域との信頼を深める学校広報の充実	3.2	A	4
			B	10
			C	1
			D	0
13	北上川氾濫を想定した避難訓練と情報発信	2.9	A	2
			B	10
			C	3
			D	0
14	GIGAスクールに対応した情報モラル学習の徹底と情報端末のフィルタリング	3.0	A	3
			B	9
			C	3
			D	0
15	感染症予防の徹底と緊急時の迅速な対応	3.5	A	8
			B	6
			C	1
			D	0

学校まなびフェスト項目評価結果（生徒、保護者アンケート結果を受けての評価）

評価項目		評価数値	職員評価	
1	【地域】地域貢献活動の充実、地域連携の推進 地域貢献活動の充実と地域連携により、生徒の主体性と自己有用感の向上を図る ① 生徒アンケート項目「日々の地域貢献活動として、『挨拶で地域の人へ元気を届ける』ことができたか」で肯定的回答→80%以上(R3) ② 生徒アンケート項目「地域と関わる取組や、ボランティア活動に参加している」で積極肯定38.0%(R2)→60%以上(R3)	3.0	A	2
			B	9
			C	2
			D	0
2	【見通】非認知能力を育成する習慣づくり 日々の生活に見通しをもち、振り返りながら目標にむかう習慣を身につけるツールとして導入した「フォーサイト手帳」の更なる活用を図る ① 生徒アンケート項目「自分で1週間の予定を立てて生活・勉強している」で積極肯定34.5%(R2)→40%以上(R3) ② 保護者アンケート項目「子どもは自分の時間を計画的に使っている」で積極肯定14.7%(R2)→25%以上(R3)	2.9	A	3
			B	7
			C	4
			D	0
3	【本物】本物に触れるカリキュラム 本物に触れて学ぶ授業を通して、学習意欲の喚起、将来の夢の刺激につなげる ① 本物に触れながら学ぶ授業を各教科年1回は行う。 ② 本物に触れさせ、一人ひとりの学習意欲の喚起、将来の夢の刺激につながる機会（行事、総合等）各学年1回、全校1回は行う。	3.2	A	5
			B	7
			C	2
			D	0
4	【評価】評価と発問の工夫、見通しをもった指導 適切な指導計画とともに、多様な評価と発問を工夫し、授業改善につなげる ① 定期テスト問題の2割を活用型問題とする。 ② 教員自己評価の項目「『考えさせる』『選択させる』ための問いかけの工夫をしている」積極肯定で73.3%(R2)→80%以上(R3)	3.2	A	3
			B	9
			C	1
			D	0
5	【制御】情報モラル学習と情報端末のフィルタリング GIGAスクールに対応した『情報モラル学習』を確実にを行い、情報端末のフィルタリングの推進を図る ① 各学年または各学級、最低1回は、「情報モラル学習」を実施する ② 保護者アンケート項目「子どもが使う情報端末には、フィルタリングをかけている」で積極肯定36%(R2)→50%以上(R3) ③ 保護者アンケート項目「子どもが情報端末を使う際のルールを話し合っている」で積極肯定39%(R2)→50%以上(R3)	2.8	A	2
			B	7
			C	5
			D	0

<評価項目に係る総括>

項目1の評価指標達成度 I期35.1%、II期40.8%で大きく届かなかったものの、肯定的回答は80%であった。
 項目2の評価指標達成度 生徒アンケートI期37.0%、II期32.8%で目標の40%に届かなかったものの、昨年度実績は上回っていた。保護者アンケートではII期肯定的回答は66.1%ではあったが、積極肯定回答14.7%で目標には届かなかった。
 項目3の進捗状況は、教員アンケートでは「まだ行っていない」と回答した職員が2名のみであり、3学期の実施を待って、全員が達成を目指したいところである。
 項目4の評価指標の定期テスト問題2割の活用型問題出題は、出題状況から概ね達成されたと考える。自己選択を促す発問については、肯定的回答が73.3%であった。
 項目5の評価指標達成度 生徒アンケートI期1時間31分、II期1時間36分であった。保護者アンケートではII期積極肯定24.6%で目標値には及ばなかったものの、肯定的回答は68.4%であった。